

会議の概要

平成28年度 第9回

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

- 大山幼稚園学校運営協議会 ○ 玉井幼稚園学校運営協議会
○ 大山小学校学校運営協議会 ○ 玉井小学校学校運営協議会
○ 太玉中学校学校運営協議会

日 時：平成29年2月23日（木）18:30～20:30

場 所：大玉村農村環境改善センター2階 農事研修室

進行：事務局

1 開会の言葉

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 伊藤 和弥

2 教育長あいさつ

大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎

- ・本日は本年度最後の委員会となった。第2期ということで始まった2年間、「地域とともに歩む学校」を目指して取り組んできたことが成果となって現れてきたと思う。
- ・本年度新たに取り組んだことで、コミュニティ・スクール委員に学校関係者評価委員を兼ねていただいたことについて、実質的な評価をいただくことができ、評価委員会の機能を十分生かすことができるようになったと思う。
- ・本日の議事の中に教育課程の承認がある。コミュニティ・スクールの3つの権限の一つなのでよろしくお願いしたい。

3 会長あいさつ

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会 会長 境野 健児

- ・大玉では地域と学校が関わり合いながら子どもたちを育てていこうという取り組みをずっとしてきているが、これは大玉の誇りを子どもたちに培っていることになっていると思う。今日は今までの活動を振り返りながら、ご意見をお願いしたい。

4 諸連絡 本日の日程・内容について（事務局）

5 協 議（座長 CS 会長）

(1) 全国体力・運動能力調査並びに福島県学力調査の結果について

- ① 両調査の結果の概要一括説明（事務局より）
 - ② 質疑・意見交換
- ・特に意見なし。

(2) 各校園で実施した学校関係者評価について（各校園の代表委員が報告）

- ① 大山幼稚園
- ・ 今年 は 2 月 8 日 の 午前 9 時 から、保育参観をしてから評価委員会という流れで行った。

明るく良い雰囲気のできたので活発な意見交換ができたと感じた。

- ・先生の園児一人一人の個性に応じた指導を実際に見て感じる事ができた。資料も簡潔明瞭で見やすく大変良かった。

② 玉井幼稚園

- ・読み聞かせは、話を聞くこと、また人の話を聞いて行動するという事につながるので継続してやってほしい。

- ・幼稚園の方針として、運動遊びを取り入れながら体力づくりをしていきたいということがあった。このことから、自分から挑戦しようとする気持ちを育ててほしい。

- ・全体として、幼稚園、家庭、地域が一体となって子ども達を育てていくという方向性が感じられて良かったと思う。

③ 大山小学校

- ・2月13日、午後1時30分から授業参観のあと評価委員会が開かれた。

- ・重点目標の一つ「進んで学習する子の育成」の中で、多様なジャンルの読書の推進の達成状況が若干低かった。学校で読書の時間をもう少し確保するなど、読書力を上げる対策を取ってほしい。

- ・「仲良く助け合う子の育成」については、最近テレビなどでもいじめ問題が大きく取り上げられ、親兄弟、近所の人など身近な人とのかかわりあいの希薄化が要因としてあるのではないかという意見が出た。挨拶運動や道徳教育を重視して取り組んで欲しい。

- ・「健やかでたくましい子の育成」については、学校側でも安全防災教育として、自動車学校や警備会社による安全防災教育を推し進めて下さっている。大変素晴らしい。

- ・全体として、本年度の取り組みとしては良かったという評価となった。

④ 玉井小学校

- ・1月26日、午後1:50から全クラスの授業参観、その後に委員会という流れで実施した。

- ・各種取り組みに先生方の工夫が見て取れたので、この点について評価した。

- ・一方、どの取り組みも学校だけでは限界があって、家庭との連携が欠かせないため、家庭も一緒になって本気で取り組まないと成果が表れない。このことを保護者自身に理解いただく、意識改革を促す取り組みも必要なのではないかということ意見をいただいた。

⑤ 大玉中学校

- ・11月に実施した保護者と生徒対象の学校運営についてのアンケートの結果を踏まえて、12月に教職員による自己評価を実施し、これらの集計結果を考慮しながら評価した。

- ・課題としては、キャリア教育の推進、3年間を見通した体験活動の見直しが必要なのではないかということが挙げた。

- ・教職員の能力も発揮されるような研修や心の健康に重点を置いた健康教育を充実させてほしい。

- ・地域とのふれあいから子ども達の社会性を育ててほしいなどの意見が出された。

(CS委員から)

- ・学校では幼小中ともに読書を推進していただいている。足りないのは家庭での読書だと思う。学校以外でも読み聞かせなどもあるので少しでも子どもと一緒に本を読むようにし

ていきたいと思っている。

・学校評価とは基本的に、学校に注文を出すのではなく、学校がやっていることを励ますというものであるべきだと思っている。あらさがしをするのではなく、いいところを見出しながら、いい関係を築いてほしい。

(3) 平成29年度 各校・園の学校運営の方針説明 → 承認

【資料：各校・園 平成29年度学校運営の方針（学校運営ビジョン）】

① 大山幼稚園

- ・教育目標については大山小学校と同じである。
- ・三つの重点目標について、4歳児、5歳児の達成して欲しい姿を明確にしたほうが、よりよい保育ができると考え、重点目標の下にそれぞれのねらいを載せることにした。
- ・学期ごとにどこまで子ども達が育ったのか、どの部分の援助がさらに必要なのか把握し、ねらいに向けた保育の充実を図る。
- ・学校評価委員会の中でも指摘があったが家庭での読書の重要性から、参観日にブックトークを企画し家庭での読書の充実を図っていきたい。
- ・運動遊びには個人差があるが、体を動かすことの楽しさを味わえるように支援していきたい。
- ・安全教育の具体的指導については、繰り返しの指導し主体的に判断し行動できるよう家庭とも連携して取り組んでいきたい。

② 大山小学校

- ・来年度のビジョンも本年度と大きく変わる所はない。
- ・実践内容については月ごとにそれぞれをチェック評価して、取り組みの改善に活かしていきたい。
- ・基礎的・基本的な学力を確実に身に付けさせるために、45分の授業の中でめあてを明確にして、めあてに沿ったまとめ、振り返りを行う。
- ・学習基盤づくりのために「家庭学習の手引き」を活用し具体的に指導する。
- ・あいさつが行き合う学校を目指して、教職員も進んで模範を示すよう取り組んできた。来年はさらにボランティアなどで学校に来て関わって下さる方に感謝の気持ちを表すとともに、積極的な会話からコミュニケーションが取れるようにしていきたい。
- ・やりぬく心の育成のために、教科体育ではめあてを設定しそれに向かって取り組む。合わせて「体育ファイル」を活用しながら教科体育以外の運動も推進していきたい。
- ・おおたま学園との連携や、保護者、地域、各種団体との連携については学校教育活動の推奨においてつながりを持たせて推進を図っていきたい。

(委員)「学習カード」「家庭学習の手引き」など各種の発行物がでているのだが、これらはどこかが発行するものなのか？

(学校)「学習カード」は各学年で作成している。「自分手帳」というのは県から一人一人、健康の記録とかに使うためのものが配付され高校卒業まで使用するものとなっている。

③ 玉井幼稚園

- ・教育目標については玉井小学校と同じもので、8年間を通して取り組んでいく。

- ・主体的に活動する意欲を育てるために、じっくり子どもたちが試したり、工夫したりできる環境を作る。また、遊びをどういった方向に持っていったらいいのかなどについて教師の援助を工夫しながら実践していく。

- ・読み聞かせの充実については、参観日を利用して読み聞かせタイムというのを設定し、親子で読み聞かせをする機会を作る。

- ・「友達と仲良くできる子ども」という部分では、トラブルや葛藤体験というのが、子どもたちの成長のうえでとても重要であるので、そういった場面をしっかりとらえて友達の思いに気付かせる援助を行っていく。

- ・すすんで気持ちの良い挨拶ができる環境を整える工夫ということで、玉小さんに協力していただき朝、小学生とともに挨拶運動に加わる活動を来年も取り入れていきたい。元気な挨拶が活動に加わらない子どもにもよい影響を与えている。

- ・「目標に向かって挑戦できる子ども」の部分では、チャレンジカード等を活用し、体を動かすきっかけづくりをし、挑戦する楽しさを味わえるように支援する。

- ・最後に健康教育の指導の充実のところで、危険回避能力といれてある。これは自分で命を守るために危険を自分で判断して行動できる能力も身に付けさせるよう新たに入れさせていただいた。

- ・地域と関わる力の育成では、来年度小学校さんの方で学校でのボランティア活動の一環でクリーンアップ作戦を実施するということであるが、幼稚園でも何らかの形で一緒に参加したいと思っている。園児も地域に少しでも役立っているという意識を育てたい。

（委員）あいさつについては、幼稚園に伺った時も元気にあいさつをしてくれているのでぜひ続けて頂きたいと思う。絵本の読み聞かせについても、家庭ではなかなか時間が取れないこともあるので、参観日で工夫してやっていただけるのはよい事だと思う。また、読み聞かせはお父さんがしてもいいのでそういうことも啓発してほしい。

④ 玉井小学校

- ・玉井小の教育課題は、子ども達の主体性を育んでいきたいということである。

- ・教育目標のスローガンを掲げている。「玉っ子 みんなで チャレンジ」である。幼稚園も同じである。玉井の子どもとして自信と誇りを持って、みんなで新しいことに挑戦し一歩踏み出すことで新しい世界を経験させたいと思っている。

- ・主体性を育んでいくためには、探究活動の充実について来年度特に取り組んでいきたい。子どもたちが地域に出て、疑問点や課題を見つけ自分たちで解決していくというような学習をさせていきたい。

- ・社会に開かれた教育活動の推進ということで、昨年度から取り組んでいる教育活動への保護者の参加、地域のボランティアの方の学習参加を更に推進していきたい。教育活動に参加していただいて、同じ思いで教育活動に加わっていただくのがねらい。学校はいつでも地域に開いているという姿勢でやっていく。

- ・地域貢献、社会貢献、社会参画意識の醸成として、ボランティア活動を通してそのきっかけだけを作りたい。日本で最も美しい村クリーン活動はすでに 2 年間やっているのでも来年度も取り組む。来年は幼稚園も一緒にやる予定である。地域の方にも防災無線などで広報して、参加を募っていきたい。

- ・今年度から取り組んだ体力向上に向けた歩こう会も継続して実施する。

⑤ 大玉中学校

- ・大玉中学校が教育目標で一番大事にしたいことは、「将来に夢を抱き、実現に向けてひたむきに努力する生徒」である。
- ・知の部分ではまず授業の充実等を挙げた。中学校は教科担任制なので教師は成績を上げるために努力し、周りはそれを支える環境を整える。
- ・徳については、教員や保護者だけでなくたくさんの大人と関わる必要がある。そのための取り組みの一つがキはヤリア教育である。職場体験では、地域の大人が自分の生きがいや働いていることで感じる生きがいを伝えてほしい。そういったことから子どもたちの夢につながっていけばと思う。
- ・体について。福島県全体でも体力が低い傾向があるが、大玉中の生徒も体力面で問題がある。その原因として、子ども達が通学等で歩かないことがあると思う。中学校ではマラソン大会に全員を参加させるなどの取り組みを始めてはいるが、なかなか意識は高まっていない。保護者の意識改革が必要である。

(委員)

- ・体を作るということについて、幼稚園から取り組んでいることであるが、早寝早起きごはんが大事だと思う。食事のことは家庭の責任で、体作りのことも考慮した食事の啓もうをしていけたらと思う。
- ・学校運営・経営について、「地域との連携を重要視する」ということがあげられているが、これから、地域との連携、開かれた学校という方向で進むのなら、重点目標になってもいいのかなと思う。

(4) 第8回教育フォーラム反省

① アンケート集計結果から

- ・フォーラムの参加者割合について、今回は保護者の割合が高く、PTA 連絡協議会に共催していただいた効果であると思われる。また、質問の回答について、「とてもよい」「よい」という答えが全ての項目でほぼ90%以上を占めていて、参加者にとっても意義のあるものになったことがうかがえる。
- ・第2部のフリートークで出されたご意見は、いろいろな意見が様々な角度から出されていた。グループによって、具体的な方策を考えてくれたところから、概念的なものを考えていたところ、た、オータム・フェスタの反省などに話が及んでいたところ様々であった。

② 意見交換（次年度以降の内容・運営について）

- ・はじめに報告してくれたCS委員のお二人の発表がとても良かったと思った。参加者みんなの気持ちを解放してくれたという印象を持った。

(5) 平成29年度コミュニティ・スクール委員会運営について

① 平成28年度おおたま学園CS委員会を振り返って

- ・おおたま・オータム・フェスタについて、先生方の負担が非常に大きいので、次年度はもっと事前にボランティアの打ち合わせ等があってもいいのかなと思う。また、保護者もボランティアとして参加しなかったという声が多かったので、できるだけ先生方以外で運営できるような仕組みにしていきたいと思う。
- ・これは土曜授業の一環として展開したという経緯があり、授業として子どもたちが動く

場合学校に責任があるので、先生方が主役にならざるをえない。しかし、オータム・フェスタはCS委員の皆様のお力添えがなければ実施できなかった。詳細に調整をしていただいたからこそできた行事である。そのことについては本当に感謝申し上げたい。

・地域が先生方と対等な立場で子どもたちと一緒に育てていくということを理想形に見据えながら、来年すぐに実現できるということではないが、一步でも進める様に頑張っていきたい。

(委員) CS委員会の時間について、開会を午後6時30分で統一して欲しい。出欠報告は欠席する場合のみで良いのではないかな。

(事務局) 改善したい。

② 基本方針(案)年間計画(案)説明

○基本方針(案)について

・オープンスクール(おおたま学園主催の授業研究会)に、CS委員の皆様も参加し、各校園の学校運営協議会をその当日夕方に行う。このことにより、子ども理解・学校理解のより一層の深まりとともに、それらに基づいた協議の活性化を目指す。

・学校関係者評価を実施し、学校経営・運営の改善のサイクルが有効に機能するようにする。

・第9回目となる教育フォーラムは、保護者、村民の方々が年に1回集い、教育・子育てについて語り合う場として実施する。その際、保護者、村民ができるだけ多く参加できるよう、呼びかけ・周知を図る。なお、内容・運営は役員会が概要を企画し、CS委員会の中では、協議の時間をできるだけ短縮する。

・おおたま・オータム・フェスタの企画・運営に協力し、ねらいの達成に寄与する。

○平成28年度の活動実績と平成29年度の計画(案)について

・6、9、11月実施の各校園主体の学校運営協議会は、オープンスクール(5校時の授業参観)と一緒にやる。そのため、午後から夕方にかけて開催する。(授業参観-事後研究会-学校運営協議会の午後半日の予定)

・次年度も役員会は厳選して実施したい。(計画は2回)

・規則上、「再任を妨げない」となっていることから、再度、委員をお願いする場合があります。その際は、どうぞよろしくお願いします。

6 今年度の総括(CS会長)

・大玉が何年もかけて積み重ねてきたこと、学校を地域に開いて、学校も地域の人達も一緒になって教育を作っていこうという思いを共有していること、そのことは、子どもたちの夢を着実に広げていると思う。

・会議では、熟議を大事にしていろいろな意見を出し合いながら、みんなで作ってほしい。

・コミュニケーション能力というのは、聞くことが始まりだと思っている。CS委員会の中でも「聞く文化」を大事にしてほしい。

7 その他

○CS便りの発行について

・教育フォーラムの総括等について、地域の方々に発信できるように努めていく。

・委員の任期 2 年間ということで、皆様本当にお世話になって、ありがとうございました。
地域と学校をつなぐ役割ということは非常に概念的なことだが、先ほども学校長の方から、
学校の頑張りを学校の歩みを地域に発信する役割を担ってほしいという話もあったので、今
後ともよろしく願います。

8 閉会の言葉

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 藤田安宏

コミュニティ・スクール委員会を通して私自身も学んだことを実践していきたいと思ってい
る。以上を持ちまして、2 年間の最後の委員会を閉じたいと思います。